

ハトムギ通信 (第3号)

令和2年7月7日

アルプス農協管内農業技術者協議会

ハトムギ栽培のポイント ～除草対策、うね間かん水～

- ◎除草と生育量確保のため、培土は必ず2回実施しましょう。
- ◎中耕作業で雑草が抑えられない場合は、草種に応じて除草剤を散布しましょう。
- ◎高温乾燥に弱いので、高温少雨が予想される場合は、うね間かん水を行いましょ。

1 生育期の培土及び除草

(1) 培土及び中耕による除草

- ・ハトムギが大きくなる前に雑草が発生してきたら、中耕による除草を行いましょ。
- ・培土作業は、中耕除草と兼ねて①播種後 25 日頃と②1 回目の 10 日後頃の 2 回、確実に実施しましょ。

草丈が 80cm 程度までは培土作業が可能です。確実に 2 回実施しましょ。



(2) 薬剤による除草 (中耕で雑草を抑えきれない場合)

薬剤名	適用雑草名	使用時期	薬量	使用回数
バサグラン液剤 (全面散布が可能)	一年生雑草 (イネ科雑草除く)	雑草3~6葉期 但し収穫 45 日前まで	150ml/10a (希釈水量 100ℓ)	2回以内
プリグロックスL※ (うね間処理に限る)	一年生雑草	雑草発生期(出穂前まで) 但し収穫 60 日前まで	600~1,000ml/10a (希釈水量 100ℓ)	2回以内

※『プリグロックスL』は非選択制除草剤のため、ハトムギにはかからないよう、ていねいに散布しましょ。

2 うね間かん水

- ・ハトムギは、出穂始め (7月中旬) 以降成熟期まで、最も水分を必要とします。今年の夏は高温少雨が予想されています。積極的に「うね間かん水」を行いましょ。



水分不足になると...

- ①肥料の吸収が抑えられ、生育が停滞する。
- ②植物体内から水分が蒸発し、葉が巻き始める。

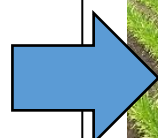
この状態になってしまったら、手遅れです...



写真 水分不足で萎凋したハトムギ

●うね間かん水の方法

- ①ほ場全体に水が行きわたるよう、十分にかん水を行う。
- ②うね間かん水後は、自然落水する。



葉が巻く前に、うね間かん水!

アワノメイガの防除を行っていない場合は、速やかに実施して下さい (通信第2号参照)